

第4回

オンライン麻雀で熱くなれ！ BEKKOAME/INTERNET GAME WORLD

小笠原 誠

単なる「閲覧」から「参加」へ。インターネット上で対戦ゲーム環境を実現するゲームサイトは、WWWの質的変換をもたらす新要素として、現在大きな注目を集めている。そしていまここに、また1つ新たなゲームサイトが誕生した。あの「BEKKOAME/INTERNET」がオープンしたこのサイトでは、日本語で安心してゲームをプレーできる。しかも、その対応ゲームの第一弾が、麻雀ゲーム。これはもう、アクセスせずにはいられないという人も多いはずだ。

ネット麻雀 ゲーム王国

BEKKOAME/INTERNET GAME WORLD



開発元：BEKKOAME/INTERNET
入手先：<http://www.bekkoame.or.jp/>
価格：無料

動作環境
対応OS：
マッキントッシュ(システム7.1以上)
ウィンドウズ95版は9月中リリース予定
メモリー：4Mバイト以上
(マッキントッシュ版)

Pub

オンライン麻雀の登場！

最近、インターネット上では、ユーザーに対戦ゲーム環境を提供するサイトが登場してきている。しかし、そのほとんどはアメリカのサイトであり、そこで使われる言葉は、当然ながら英語というのが現状。

いくら国境がないというのがインターネットの美点だとはいえ、やはり遊びのときぐらいは言葉で苦労したくないという気持ちが働くのか、そうしたサイトに興味はあるものの、いざアクセスとなると思わず尻込みしてしまう人も多いと聞く。

どこか、日本語のみでゲームをプレイできるサイトを開設してくれる、奇特なメーカーはないのか。そう考えていた人に向け、まさにグッドタイミングで飛び込んできたニュースがある。ごそんじ低料金プロバイダーの雄、「BEKKOAME/INTERNET」が、ゲームに特化した新サービスを開始したというのだ。

そのサービスの名称は、「GAME WORLD」。BEKKOAME/INTERNETのホームページ内に開設された、イカしたひげおやじのマスターが営むパブ。そこにゲーム好きの客が集うという趣向で、専用の「pub」というクライアントソフトとゲームプログラムを利用してアクセスしたユーザー同士が対戦できるという仕組みだ。

しかも、その対応ゲームの第一弾が麻雀というのだから、さすがは目のつけどころが日本オリジナルのサービスと納得してしまう。ポーカーなどのトランプゲームを代表として、インターネット上でプレー可能なテーブルゲームは数々ある。だが、そのどれをとっても、いまひ

とつ熱くなれないという人がいるのも事実。まあ、それもわからないではない。日本では、ふつうの大人が日常的にテーブルゲームを遊ぶという習慣はないからだ。

しかし、よく考えてみると、この世には大の大人が寝食を忘れて熱中するテーブルゲームが存在しているではないか。それは何かというと…。そう、麻雀だ。「ギャンブル性=運」の要素と、「競技性=実力」の要素、この2つの要素のバランスが絶妙で、多くの人間を魅了して止まない素敵なゲームが、インターネット上でプレーできるなんて。週1回は牌を握らないと禁断症状が出るという上級者から、麻雀はゲームセンターの脱衣モノしか経験したことがないという初心者まで、これはもう是非ともプレーせねばなるまい。さっそく専用ソフトを手に入れて、酒場へと足を運ぼう。

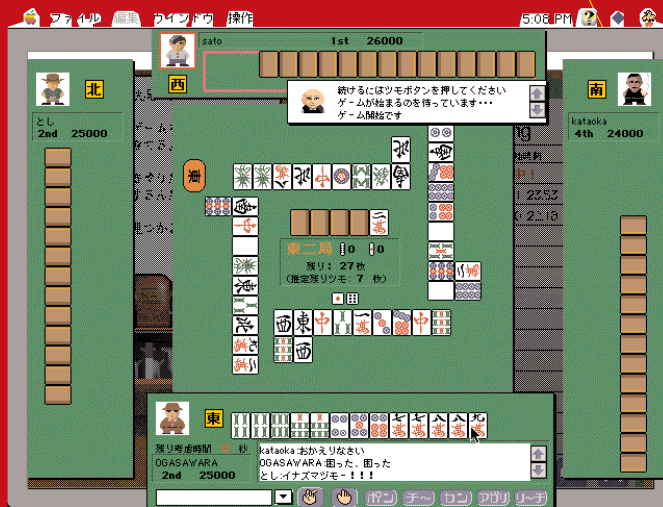


昭和30年代から40年代にかけては、学生の必須アイテムとされていた麻雀。当時は授業をふけて雀荘に入り浸っていたという話を、団塊の世代のオヤジから聞かされた人も多いだろう。だが、昭和も50年代となると、世の中全体がオシャレ志向になったせいも、麻雀人気は低迷してしまうことになる。

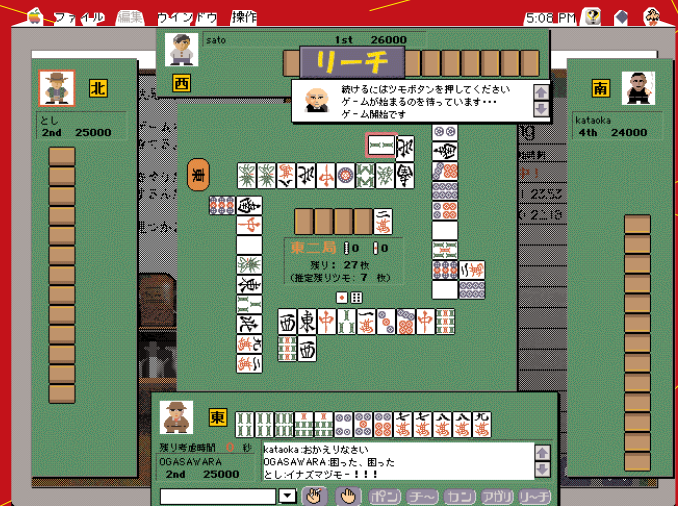
ところが、この4、5年の間に、麻雀の認知度が復活しているという。その原因は諸説さまざまだが、もっとも有力な説としてコンピュータゲームの影響が挙げられているのだ。

何かと忙しい現代人が、4人の面子を集めて最低数時間を共にするというのは、けっこう大変な作業。まあ、1人でも参加できるフリー雀荘もあるにはあるが、ちょっと怖いよね。百戦錬磨のプロたちに、尻の毛まで抜かれそうで。しかし、コンピュータゲームなら、自宅にいながらにして、麻雀を楽しむことができる。麻雀自体は、高度な戦略性に裏打ちされた、向上心を刺激するゲームだ。それが手軽に楽しめるのだから、人気が出るのも当然と言えば当然だろう。

そして、時代は移り、いよいよオンライン麻雀の登場となった。それぞれの打ち手の個性が如実に反映される場の流れと、コンピュータゲームの手軽さ、その両方がミックスされたオンライン麻雀。そのおもしろさは、約束されたも同然だ。



本格的な4人麻雀。実際に卓を囲んでいる気にはさせられる。



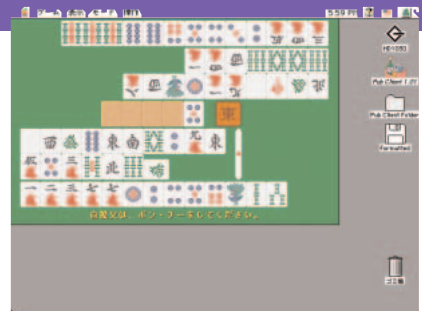
いよいよリーチだ！果たしてあの牌は来るか？



麻雀初心者でも安心

麻雀初心者にとっていちばん怖いのは、なんといっても「チョンボ」だろう。自分がすでに捨てている牌を当たり牌として宣言してしまう、テンパっていないのにリーチしてしまう、などといったルール違反を犯すと、有無を言わず罰則金を徴収されてしまう。それがチョンボだ。まだルールがうる覚えでしかない状態で卓を囲んでコレを連発し、もう二度と麻雀なんてしないと心に誓った人も多いのではないかと。しかし、この「Pub」の麻雀では、そんな心配はない。システム的に、チョンボはできなくなっているのだ。

たとえ間違った牌を指定しても、その選択は実行できない。この辺りは、さすがコンピュータ。ピギナーでも、安心して対人プレーできるというわけだ。とはいえ、あまりにトンチンカンな手ばかりを打っていると、対戦相手に不快感を持たせてしまいかねない。別にすべての役を憶える必要はないが、最低限、「タンヤオ」や「リー」のみで上がれるようになるまでは、麻雀のルールを解説した入門本を常にキーボードの脇に置いておいたほうが無難だろう。



シェアウェアの麻雀ソフト。まずはコンピュータを相手に腕を磨こう。

Mah-Jong

「Mah-Jong」体験記

13:00

意気込んでアクセスしたはいいが、誰もいない。平日の真っ昼間なのだから、当然といえば当然か。仕方ないので、とりあえず17時からのゲームを予約する。

18:15

ヤバイ、昼寝のつもりが大幅に寝てしまった。あわててアクセスしてみると、当然、自分が入れた予約は流れてしまっている。みなさん、すみません。

19:40

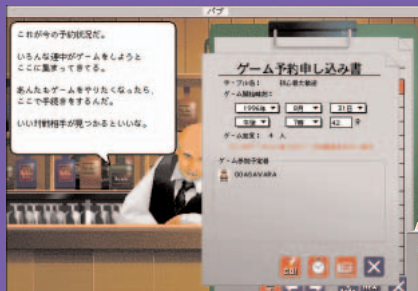
何度かトライしたのち、ようやくゲーム参加に成功。対戦相手のプロフィールを見ると、全員が初心者ようだ。よし、よし。これなら勝てるかも。

20:30

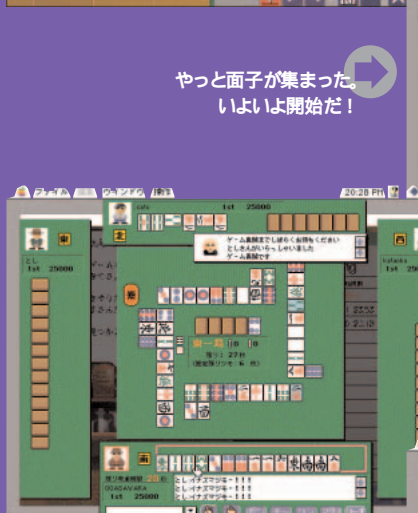
みんな初心者というわりに、全然上がれないのはどういうわけなのでしょう。それにしても、時間がかかる。30分以上経つというのに、まだ東場だ。

22:15

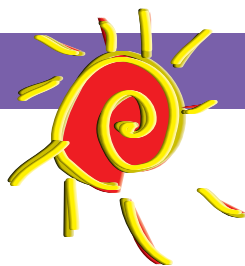
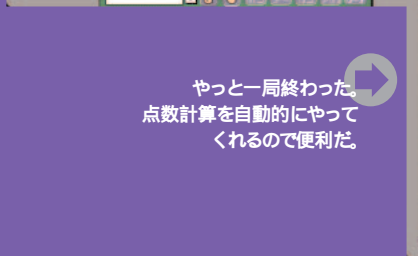
ようやく一局終了。結局大きな役を作ることができず、マイナスに終わってしまう。ハコテンにならなかったのが、せめてもの慰めか。クヤシイ。



皆に呼びかけたが誰もいない。誰でもいいから来てくれー。



うーむ。なかなか上がらない。



総評

さて、実際にオンライン麻雀に参加してみたところ、概ね満足できる結果となった。少しばかり反応が鈍い、タイミングがあわなくてなかなかゲームに参加できないなど、ちょっと気になる点もないではない。だが、実際に4人の面子を集めて雀荘に行くことを考えれば、それらの欠点は十分我慢できる範囲だといえる。お金のやり取りができないことがどうしても不

満という人もいるかもしれないが、その場合は仕方がない。フリー雀荘にでも行って地獄を見てください。なお、これは蛇足かもしれないが、電話料金には要注意。半チャン勝負でも最低数時間はかかってしまう。心置きなくゲームに参加するためには、NTTのテレホーダイが必須かもしれない。

Game World

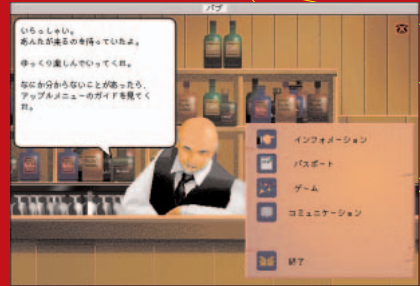
ようこそ、ゲーム酒場へ

それでは、オンライン麻雀を楽しむためには、実際にどういう作業が必要になるのかを説明していこう。なお、Pubはマッキントッシュとウィンドウズ95の両方のプラットフォームで楽しむことができる予定だが、残念ながらこの原稿を執筆している時点では、ウィンドウズ95版のゲームプログラムが完成していない。そのため、ここではマッキントッシュ版の説明のみを行うので、ご了承を。

まずは、ゲームの設定以前に、Pubの会員になる必要がある。BEKKOAME/INTERNETのホームページ(<http://www.bekkoame.or.jp/>)にアクセスし、必要なファイルを手に入れるか、付録のCD-ROMに収録してあるファイルを使う。最初に表示されるホーム画面のうち、「Game World」のアイコンをクリックすると、Pubのページにジャンプするので、その画面の指示に従って「Pub」をダウンロードする。こ

のファイルは圧縮されており、解凍すると、「Pub

Client」、「PIC-Ts」、「ICONS」、「Pub News」、「Read Me」、以上5つのファイルと、「Polling App」というファイルを収めた「Pub Staff」という1つのフォルダが作成される。このうち「Pub News」は、システムフォルダ内の「初期設定」フォルダに入れる必要があるが、他のファイルはそのままでOKだ。設定が完了したら、さっそく「Pub Client」を起動させ、接続の確認。アクセスが完了したらユーザー登録だ。「パスポート」というアイコンをクリックすると、各種の情報を入力するウィンドウが開く。氏名、生年月日、職業、性別、メールアドレス、ハンドルネーム、住所、勤務先、連絡先、そして自己紹介のプロフィールを入力しよう。すべての欄に入力したのち、鉛筆のアイコンをクリックすると、めでたくユーザー登録完了となる。



いずれはバーチャルマネーで賭け麻雀？！

BEKKOAME/INTERNET 代表の尾崎憲一氏にインタビュー（聞き手：編集部）

「GAME WORLD」の開発のきっかけをお聞かせください。

尾崎：私が学生の頃、インターネットをかじるようになって、これで自分の大好きな麻雀ができるようになったら面白いな、と思ったのが最初です。もっとインターネットをコミュニケーションのツールとして役立ててほしいという思いから作りました。



最初のゲームに麻雀を選んだ理由は？

尾崎：まず、アクションゲームはやめよう。派手な「バーチャファイター」よりも、人とやるオセロのほうが楽しいこととありますよね。チャットしながらじっくりゲームして、終わったら「おやすみなさい」と言って寝ると。そのような感覚が大事だと思いますね。「Mah-Jong」はゲームが終わっても3分間は卓の画面が出たまま終わらない。それは終わったあと会話するための時間なんです。ぶつう麻雀が終わったあとって、会話があるのが当たり前ですよね。

将来このサービスは課金されるようになるのですか？

尾崎：少なくとも年内は課金しません。自分たちの勉強のため、という姿勢でやっています。広告やソフトハウスからのライセンス料だけで費用を賄えるのであれば、無料にしたい。もしこの先課金するにしても、運営が継続できるだけの料金しかいたたかな

いという方式になるでしょう。

これからどのように発展させていこうとお考えですか？

尾崎：日本将棋連盟や、日本書院などから将棋や碁を作ってほしいという声もありますし、プレーに時間のかかるシミュレーションゲームも作りたい。どんどん次のゲームを作っていきたいですね。それから英語版を作って海外の人も利用できるようにしたり、またできれば音声でも会話できるようにしたい。やはり「ロン」って実際に言い合えたら楽しいですよね。あと、GAME WORLD内だけの「通貨」を作って賭け麻雀ができるようにするとか、長者番付とか作ってリアリティーを出したい、現金に替えられないかわりに、その世界の中で「位」のようなものがあつたら、ハマるじゃないですか。上級者はすごくかっこいいキャラクターアイコンを使えるというようにしたらどうか、という提案もユーザーからいただきました。人はそのようなことで十分幸福になれる、とね。

Preference

「Mah-Jong」 の設定

「Pub」へのユーザー登録が終了しても、それだけでは、オンライン麻雀をプレーすることはできない。ゲーム用のプログラムを、別途用意しておかなければならないのだ。BEKKOAME/INTERNETのホームページにアクセスし、クライアントソフト「Pub」を入手したときと同じ要領で、今度は、「Mah-Jong」という名称の圧縮ファイルをダウンロードしよう。このファイルを展開すると、「Mah-Jong」、「Mah-Jong Pict」、「Read Me」、「Mah-Jong manual」の4つのファイルが生成される。これらのファイルのうち、前の2つのファイルを「Pub Stuff」フォルダに入れば、すべての準備は完了。はやる心を押さえ、再び「Pub」にアクセスするべし。

「Pub」の初期画面のうち、「ゲーム」アイコンをクリックするとテーブルの、つまり雀卓の使用状況と予約状況が表示される。当然ながらそのとき使用されていて、ゲームが進行中のテーブルに割り込むことはできない。予約状態のテーブルのゲーム開始時間を確認。時間が合うなら、参加を予約する。他のプレイヤーに迷惑をかけないよう、くれぐれも開始時間には遅れないように注意しよう。

なお、麻雀といえば、全国各地で使用されるルールが微妙に異なっているものだが(「赤チップ制」とかね)、ここで採用されているルールは、ごく標準的なもの。特に詳しい説明がないのは残念だが、そう戸惑うこともないはずだ。

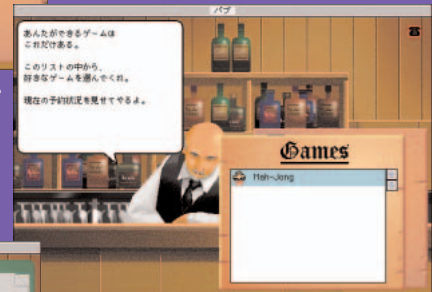
ところで、今回の記事作成には間に合わなかったが、この号が書店の店頭に並ぶころには、ウィンドウズ95版のゲームプログラムも完成している可能性がある(現時点ではpubクライアントのみ配布中)。そちらのユーザーの方も、とりあえずはBEKKOAME/INTERNETのホームページを覗いてみよう。基本的なインストール方法などは、「README」ファイルを確認のこと。



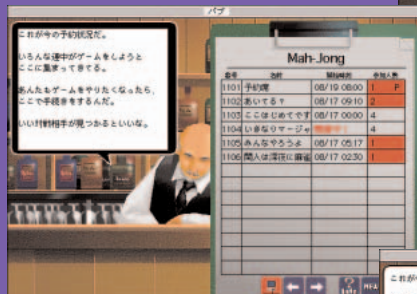
「パスポート」の設定画面。自分の名前やメールアドレス、キャラクターアイコンなどを設定する。



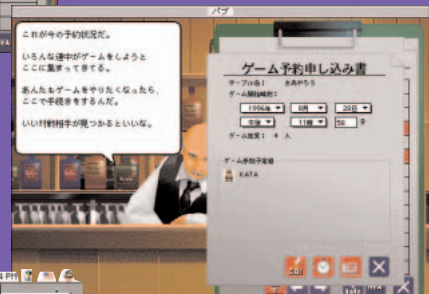
初期画面で「ゲーム」を選ぶと、プレー可能なゲームのリストが出てくる。



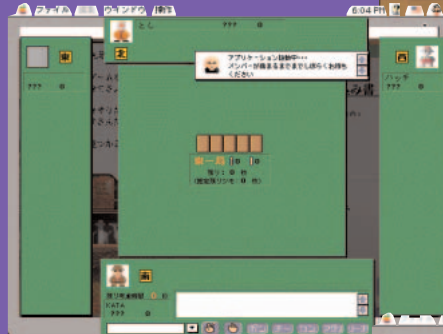
「Mah-Jong」を選ぶと、予約状況の一覧が出る。プレイヤーを募集しているグループを探し、ダブルクリックする。



「予約申し込み書」の画面になるので、予約ボタン(本の絵が書いてあるボタン)を押して予約しよう。



開始時間になったら、「GO」ボタンを押してゲームを起ち上げ、他の人が参加してくるのを待つ。メンバーが増えれば対局開始だ。



だれかの回線が切れてゲームが中断してもあわてることはない。すぐに入り直せば、途中からやり直せるのだ。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp